

論文作成指導パッケージII

研究の組み立て方・論文の書き方マニュアル

◀◀ Web サイト掲載用データ▶▶

実際に授業で用いるものとは内容が一部異なります

鈴木啓之

2018 年 6 月版

1. 研究の組み立て方

- ・研究を始めるには、核となる「問い」を考える必要があります。
- ・論文執筆は、締め切りが厳密に決まっている作業です。無理のないテーマを設定し、計画的に執筆するのがコツです。

1. 1. テーマの設定

- ・「地域」、「時代」、「トピック」の3点を決定します。
これが決まれば、論文タイトルを作ることが出来ます。

例)「現代イスラエルの社会経済構造」(大岩川和正)
「近代イラン知識人の系譜」(佐野東生)
「都市と暴動の民衆史：東京・1905-1923年」(藤野裕子)

- ・上記の3点で悩んだ場合は、おおよそ関心のある分野の「研究マニュアル」、「リサーチガイド」などを参考にすることをお勧めします。こういった書籍は、ゼミの先生から紹介してもらうのが良いでしょう

例)『イスラーム世界研究マニュアル』(名古屋大学出版会・2008年)
『中東・イスラーム研究概説』(明石書店・2017年)

1. 2. 先行研究のレビュー

- ・「地域」、「時代」、「トピック」の3点をキーワードに、OPACやCiNii、ProQuest(◀◀省略▶▶)で、「研究書」や「研究論文」として書かれた先行研究を探します。
- ・内容を読み、ポイントを引用や抜粋(◀◌省略▶▶)でメモをしておきましょう。その際に、「良かった点」、「検討を要する点」を1～2点挙げておくと、後に便利です。

研究書・研究論文の見極め方：

シリーズ名に「研究叢書(双書)」とついていた、出版社が大学のものは、「研究書」である場合が多いです。また、引用する史資料の有無(巻末の参考文献表に、「一次資料(史料)」が表記されている)、巻頭辞やあとがきの内容(博士論文や研究プロジェクトの出版であると明記されている)も見極めのポイントになります。「論文」に関しては、掲載される雑誌の発行元が、学会や大学、研究所である場合は、ほぼ確実に「研究論文」です。判断に迷ったら、ゼミの先生に相談しましょう。

1. 3. リサーチ・クエスチョン（問い）の作成

- ・「1. 1.」で設定したテーマに関して、いまだに明らかでない点、より詳しく知りたい点を、問いの形式で文章にします。
- ・先行研究のレビューを参考に、未だに十分な答えが示されていない問いを挙げるのがマナーです。この際に「1. 2.」で挙げた「検討を要する点」を出発点にすると良いでしょう。

例)「東洋」出身のユダヤ人は、イスラエル社会でどのような (how) 位置づけを与えられているのか？（臼杵陽『見えざるユダヤ人』）

なぜ (why)、エジプト人女性はヴェールを被る理由を「神のために」と述べるのか？（後藤絵美『神のためのまとうヴェール』）

ボリビアとエクアドルの民族運動は、同じ頃に始まったにもかかわらず、なぜ (why) 選挙に参加した時期が大きく異なるのか？（宮地隆廣『解釈する民族運動』）

旧ユーゴ地域における国家の解体と民族紛争の勃発は、なぜ (why)、いかにして (how) 起こったのか？（久保慶一『引き裂かれた国家』）

- ・問いには、「事実確認の問い」(what, when, where, who) と、「より複雑な問い」(why, how) があります。基本的に、近現代を対象とした研究では、前者の問いは、十分なリサーチ・クエスチョンとは見なされません（答えが何かしら決まっているためです）。問いを立てる際には、前者からスタートして、最終的に why または how へと至るのが理想です。
- ・リサーチ・クエスチョンは、論文執筆の指針となるので、先生や先輩、友人などと何度も相談することをお勧めします。

1. 4. 史資料の検索・内容の分析

- ・リサーチ・クエスチョン（問い）に答えるための情報源を探します。
書籍だけではなく、インターネット資料や映像資料、新聞、テレビ番組の内容、外国文学や小説、日本語や英語に翻訳された外国語資料、さらには外国語資料そのものなどが「資料」（一次資料）または「史料」に該当します。

例) 新聞と小説（南塚信吾『ハンガリーに蹄鉄よ響け』）
政治ビラ（増谷英樹『ビラの中の革命』）
身だしなみに関する倫理書（後藤絵美『神のためにまとうヴェール』）

2. 論文の書き方

2. 1. 章立ての作成

- ・テーマを設定し、先行研究のResearchを始めた段階で、仮タイトルと章立てを作ってみましょう。その際に、先行研究の章立てや、先輩の卒業論文の章立てを参考にする
と良いでしょう。

例)	はじめに	・・・テーマとリサーチ・クエスチョンの提示
	第1章 先行研究と課題	・・・先行研究レビューの提示 参照する史資料がある場合は、その紹介
	第2章 ●●の概要	・・・史資料に基づく事実の提示、情報の整理など
	第1節 ●●のはじまり	
	第2節 ●●の発展	
	第3章 ●●の分析	・・・筆者の解釈や分析
	おわりに	・・・ここまでの議論のまとめと、総括
	参考文献	・・・先行研究や参照した資料をリストで示します

- ・仮タイトルと章立てが完成したら、一度ゼミの先生に見てもらうことをお勧めします。
章の下節まで考えておくと、書き始めたときに目標がはっきりして作業を進めやすいです。

2. 2. 章立てに従って、文章を計画的に執筆していきます

- ・3章構成の場合、1章あたり 3000～5000 文字とすれば、全体の文字数は 1 万～2 万字となり、卒業論文として十分な長さになります。
- ・出典を示さない「コピペ」(剽窃^{ひようせつ})は、絶対にしてはいけません。発見された場合、学位の取消処分を受ける可能性があります。

3. 研究のタイプ（参考）

3. 1. 「事実発見型」(fact-finding) と「仮説検証型」(theory-testing)

- ・研究には、大まかに「事実発見型」（史資料を参照して、新たな事実を提起する／定説を覆す／新しい理論を構築する, theory-developing）と、「仮説検証型」（他の研究で示されてきた定理や現象を、他の事例に当てはめて検証する）があります。
- ・前者はどちらかと言えば人文科学（歴史学、哲学、文学など）に多く、後者は社会科学（政治学、社会学など）に多いです。
- ・また、前者はどちらかといえば定性分析と相性が良く、後者では定量分析が採用されることが増えています。

3. 2. 「定性分析」(qualitative analysis) と「定量分析」(quantitative analysis)

- ・人文社会分野でも、数的データを統計的に分析する「定量分析」が増えてきました。一方で、少数の事例を丹念に調べる「定性分析」も、多くの成果を挙げています。

例) 定性分析の例 『ディアスポラのパレスチナ人』（錦田愛子）

…現地に2年間滞在し、家族やその他メンバーから聞き取りを行っています。

定量分析の例 『パレスチナの政治文化』（浜中新吾）

…大規模な世論調査のデータをもとに、統計手法を用いて分析を行っています。

- ・先行研究のなかに「定量分析」型のものが含まれる場合、その読み方や理解の仕方に戸惑うことがあると思います。その際には、以下の書籍を参考にしたり、ゼミの先生に相談すると良いでしょう。

浦上昌則・脇田貴文. 2008. 『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方』
東京図書.

3. 3. 「定性分析」のメジャーな方法：比較（comparison）・過程追跡（process-tracing）

- ・「比較」は、もっとも多く採用される方法です

例）違う地域の類似した事例の比較（宮地隆廣『解釈する民族運動』）
同じ事例の時代ごとの変化を比較（藤野裕子『都市と暴動の民衆史』）
先行研究の結果（理論）との比較（後藤絵美『神のためにまとうヴェール』）

- ・「過程追跡」は、類似事例の分析で過去に示されている結果（理論）の通りに事態が推移するか、自分の対象とする事例で検証する方法です
- ・いずれの方法も、「なぜ、その事象が起きたのか」という、因果関係（causal mechanisms）を示すことを目的としています

3. 4. 学問領域（ディシプリン, Discipline）と分析対象

- ・学問領域（ディシプリン）には、それぞれ得意な分析対象があります。
例えば、国際関係論（International Relationship）は国家同士の関係、社会学（Sociology）は集団やグループの特徴を捉えることに優れています。
- ・対象とするテーマ（特にトピック）が決まった時点で、ディシプリンの入門書を読むと、分析の視座が定まることもあります（混乱することもあるので、一概にお勧めはできません）。

各ディシプリンの傾向（抜粋）

政治学	政党政治や国の政策決定・国内政治の分析を得意とする	歴史学	史資料に基づいて、事実を提起することを得意とする
国際関係論	国家同士の関係性（同盟・条約・戦争など）の分析を得意とする	哲学	ある考えや概念の発生、受容、変遷を明らかにすることを得意とする
社会学	社会集団（家族、団体、民族など）の分析を得意とする	人類学	社会集団を、特に血縁関係や儀礼、習慣の観点から分析することを得意とする
経済学	富や財の変遷や生成を軸に、社会や集団、国家を分析することを得意とする	法学	法の判例や適用のされ方、解釈の変遷などの分析を得意とする
人文地理学	気候や環境と人間集団や社会の相互作用の分析を得意とする	地域研究	上記の「～学」のさまざまな手法を、対象に合わせて使い分ける

困ったときに開く本

〈初級〉

河野哲也. 2002. 『レポート・論文の書き方入門』 第三版、慶應義塾大学出版会.

→100 ページちょっとの小冊子ですが、このプリントで紹介したことを、より詳しく説明しています。

石黒圭. 2012. 『論文・レポートの基本——この1冊できちんと書ける！——』 日本実業出版社.

→ゆるかわ系のイラストが入っていますが、よくまとまっています。内容としては上の河野哲也による冊子とほぼ変わりません。

〈中級〉

花井等・若松篤. 2014. 『論文の書き方マニュアル——ステップ指揮リサーチ戦略のすすめ——』 (新版) 有斐閣.

→ワンランク上の卒論を書きたい場合には、参照をお勧めします。

〈上級〉

加藤淳子・境家史郎・山本健太郎編. 2014. 『政治学の方法』 有斐閣.

→事例を比較することの意義をコンパクトにまとめた1冊です。修士～博士レベルまで対応できる内容となっています。

久米郁男. 2013. 『原因を推論する——政治分析方法論のすゝめ——』 有斐閣.

→すこし難しく感じるかもしれませんが、分析の際の重要なトピックを紹介しています。

〈超上級〉

キング, G. R・O・コヘイン, S・ヴァーバ. 2008. 『社会科学のリサーチ・デザイン——定性的研究における科学的推論——』 (真淵勝監訳) 勁草書房.

ジョージ, アレキサンダー、アンドリュー・ベネット. 2013. 『社会科学のケース・スタディ——理論形成のための定性的手法——』 (泉川泰博訳) 勁草書房.

バーク, ピーター. 2006. 『歴史学と社会理論』 (佐藤公彦訳) 慶應義塾大学出版会.

→ここまで来ると大学の教員レベルです（卒論で参照する必要はほとんどありませんが、最後のバークの書籍は、◀◀省略▶▶の皆さんには興味深いかもしれません）。

～以下余白～